



# 収減コロナ ひとり親家庭 困窮が深刻化

## 支援急務

新型コロナウイルスの感染拡大が長期化する中、職場の短時間営業などによる収得ひとり親家庭の困窮が深刻化しています。家計をやりくりするため、親だけでなく子どもへの昼食を抜く

ひとりの親家庭に配布する食材の箱詰め作業。2020年10月（NPO法人「グッドネーパーズ・ジャパン」提供）

# 「1日2食 子どもにも」

ケースも。こうした家庭に食材を配布するNPO法人「グッドネーパーズ・ジャパン」（東京）の担当者は「支援を求めるひとり親は増え続けている。今後、持ちこたえられなくなる家庭が出てくるかもしれない」と危機感を募らせます。

「休日は子どもに3食食べさせてあげられないこともある」。契約社員として働く大阪府内の40代女性は、コロナ禍で収入が2割3割減りました。感染が広がり始めた昨年春ごろから自分は昼食を抜き、小学4年生の息子のおやつも減らしました。昨年10月から同NPOの支援を受け、「息子は食べ盛りでお米が送られてくるととても助かる」と感謝します。ただ、自分は今でも昼食を抜くことは

あり「体力が落ちて」しんどくならないか不安」と漏らしました。

同NPOが昨年12月、支援しているひとり親らを対象にアンケートを実施したところ、大阪で約4割、東京で約3割が「親の食事が減少した」と答えました。同NPOは2017年から東京都などでひとり親家庭に月1回の食材配布を開始。大阪府内でも配布を始めたが、昨年8月に431世帯だった支援先が同12月は817世帯に急増しました。食材は企業などからの寄付で賄われており、担当者は「賞味期限が近づいた備蓄品など処分している食材があれば個人や企業を問わず連絡してほしい」と呼び掛けています。